

皆さんの大切な検体はどこに？

無事検体採取が終わって、手続きが完了した皆さんの検体はどうなるのでしょうか？

検査員はすべての検査終了後、検体と必要書類を専用の搬送バックに入れ、その場でセキュリティーキーを使い封印します。これで誰も検体には手が触れられないようになります。搬送途中、キーが破壊されたりバックが傷ついたりした場合は、第三者が検査の妨害をした可能性もあり検査は正常に終了することはありません。このように万全の対応が取られた検体は適正な温度管理をされ、検査機関に届けられます。この検査機関はどこでもいい訳ではありません。WADA が認定した検査機関でなくてはならず、日本では唯一、「LSI メディエンス」という機関で検査が行われています。そこは、WADA がアジアで初めて、日本でただ一つ認定した検体分析機関（WADA Accredited Laboratory）であり、世界でも有数の信頼性と実績を持った検体分析機関です。但し、皆さんの検体が世界で32（2015年2月現在）あるWADA認定のどの分析機関で検査されるかは決まっているわけではありません。

さて、届けられた検体ですが、検体には識別番号しか記入されていません。その検体と皆さんが検査の時に記入した書類の中で、分析に必要な性別などの情報以外の個人情報が含まれていないシートのみ検体バックに同封されています。つまり、分析機関側には誰の検体かを一切知らせることがなく、すべて検体番号によって処理されるのです。このことでも検査自体に何らかの操作が加わることを防ぐこととなります。

このように何重にも安全・改竄防止対策が取られたうえで、A 検体から検査がスタートします。A 検体で異常がなければ JADA に報告され検査は終了となります。

参考までに、このような認定検体分析機関では、一般のアスリートや競技団体からの検査依頼は受け付けていませんし、禁じられています。

今回は A 検体が陽性になった場合についてお話する予定です。